

本校の「特別の教科道徳」の取組



平成 30 年度から小学校における道徳の時間が「特別の教科道徳」として新たに位置づけられました。教科化するにあたって、道徳的価値を自分自身のこととして理解し、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、多面的・多角的に深く考え、児童生徒の道徳性を育むことを目標としています。学期ごとの通知表にも、「特別の教科道徳」に対する評価を記述することになりました。（中学校は来年度から）

本校では、「道徳科」における目指す児童・生徒像として、

1. 相手を認め、思いやりの心を持ち、実践することができる

2. 主体的に考え、行動することができる

としており、今年度、「道徳の授業改善を目指して～指導と評価の在り方を模索する～」という研究主題のもと、新しく導入された「わたしたちの道徳」という教科書を用いて、どのような授業をつくっていくかということ、全教員で模索していくことになりました。

毎年、各教員が 1 回ずつ自分で選んだ教科の研究授業を行い、教員同士で参観・検討し、授業改善に努めています。今年度は、全員が「道徳科」の研究授業を行っています。



対話を意識し、ペアやグループ活動を取り入れたり、児童生徒の考えの根拠を問う発問を考え、ひとりひとりが自身のこととして受けとめ、主体的な学びにつながるよう、授業づくりを行っています。しかしながら、道徳科の学習目標を達成することができたのかどうかを見極めることが難しいなど、課題もあります。今後、普段の授業や研究授業を通して、教員同士で内容を検討し、議論しながら、子どもたちの健やかな成長のために、道徳科の授業の改善に取り組んでいきたいと思っています。